

# シラバス 2022

## 3 年生

東洋医学と拓く、地域に生きる新しい看護

仙台赤門短期大学 看護学科



# 目次

## 専門基礎分野

医療・福祉関係法規 ……………	4
-----------------	---

## 専門分野Ⅱ

成人看護学実習Ⅱ ……………	5
高齢者看護学実習Ⅱ ……………	7
小児看護学実習Ⅱ ……………	9
精神看護学実習 ……………	11

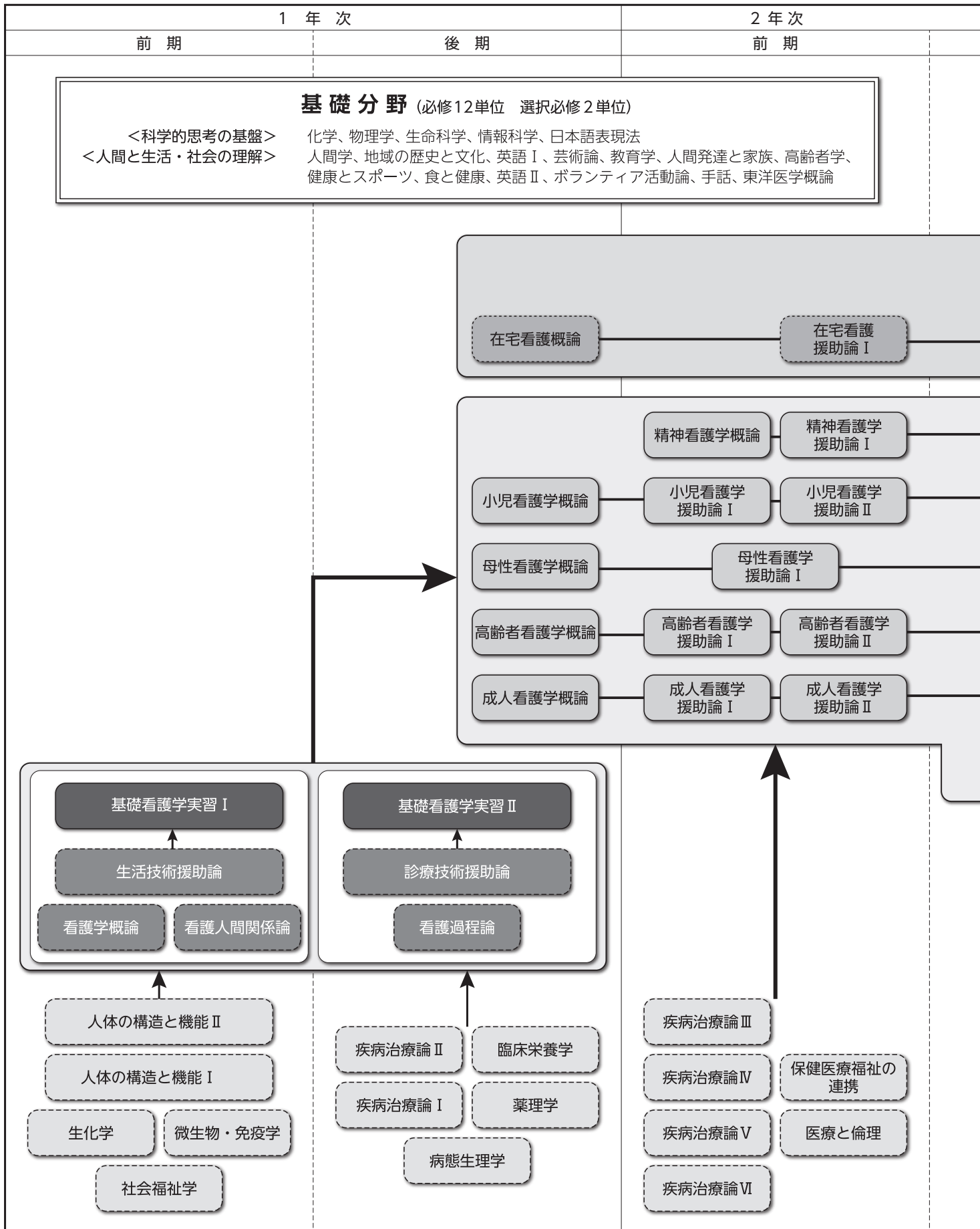
## 統合分野

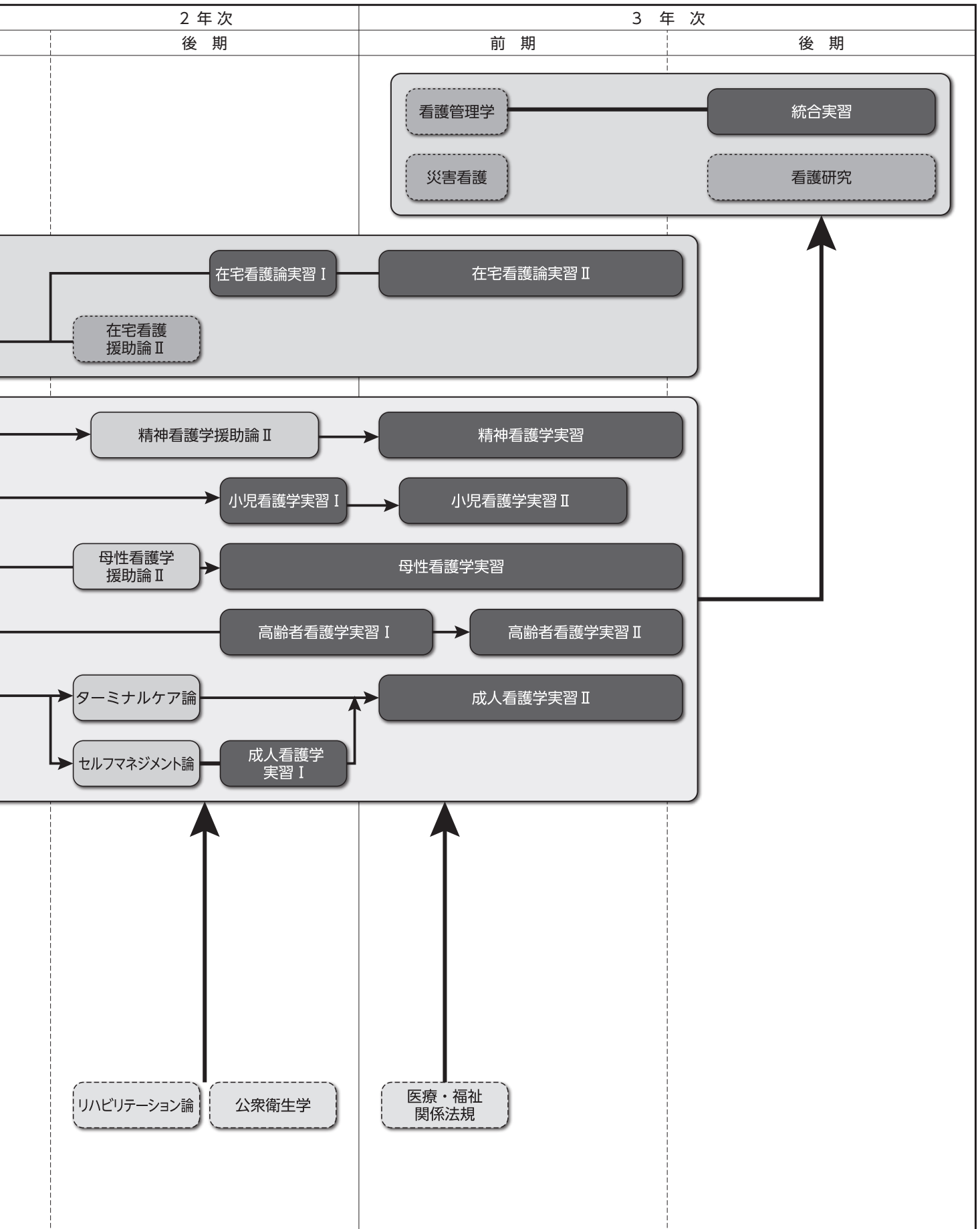
看護管理学 ……………	13
災害看護 ……………	14
看護研究 ……………	15
在宅看護論実習Ⅱ ……………	16
統合実習 ……………	18

※ 巻末…専任教員・オフィスアワー、並びに  
非常勤講師一覧（3年次担当）

授業科目及び単位数

分野	授業科目	第1年次				第2年次				第3年次			
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位
基礎分野	科学的思考の基盤	化学(選択)	1	物理学(選択)	1								
		生命科学	1	情報科学	1								
		日本語表現法	1										
	人間と生活・社会の理解	英語I	1	人間発達と家族	1		地域の歴史と文化	1					
		芸術論	1	高齢者学	1		教育学	1					
		食と健康	1	健康とスポーツ	1		英語II(選択)						
		人間学	1				ボランティア活動論(選択)	1					
						手話(選択)							
						東洋医学概論(選択)							
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能I	2										
		人体の構造と機能II	2										
		生化学	1										
		微生物・免疫学	1										
	疾病の成り立ちと回復の促進			臨床栄養学	1	疾病治療論III	1	リハビリテーション論	1				
				薬理学	1	疾病治療論IV	1						
				病態生理学	1	疾病治療論V	1						
				疾病治療論I	1	疾病治療論VI	1						
	健康支援と社会保障制度		社会福祉学	1				公衆衛生学	1	医療・福祉関係法規	1		
						医療と倫理	1	保健医療福祉の連携	1				
専門分野I	基礎看護学	看護学概論	2	診療技術援助論	3								
		看護人間関係論	1	看護過程論	1								
		生活技術援助論	4										
	臨地実習	基礎看護学実習I	1	基礎看護学実習II	2								
専門分野II	成人看護学		成人看護学概論	2	成人看護学援助論I	1	セルフマネジメント論	1					
					成人看護学援助論II	2	ターミナルケア論	1					
	高齢者看護学		高齢者看護学概論	1	高齢者看護学援助論I	1							
					高齢者看護学援助論II	2							
	小児看護学		小児看護学概論	1	小児看護学援助論I	1							
					小児看護学援助論II	2							
	母性看護学		母性看護学概論	1	母性看護学援助論I	1	母性看護学援助論II	2					
	精神看護学				精神看護学概論	1	精神看護学援助論II	2					
					精神看護学援助論I	1							
	臨地実習						成人看護学実習I	3	成人看護学実習II		3		
						高齢者看護学実習I		2					
							高齢者看護学実習II		2				
						小児看護学実習I	1	小児看護学実習II	1				
						母性看護学実習		2					
						精神看護学実習		2					
統合分野	在宅看護		在宅看護概論	1	在宅看護援助論I	1	在宅看護援助論II	2					
	看護の統合と実践							看護管理学	1				
									災害看護		1		
									看護研究		2		
	臨地実習						在宅看護論実習I	1	在宅看護論実習II		1		
								統合実習		2			





授業科目名	医療・福祉関係法規		
単位数	1単位	時間数	15時間
履修年次	3年次 前期	必修・選択	必修
担当教員	鈴木 法日児 (スズキ ノリヒコ)		
授業の概要・目的	国民の保健、医療、福祉の増進のため、看護師の役割及び職業倫理を学ぶ。具体的には、国民の生活基盤に目配りしつつ、関係法令の学習を行い、これを通じて看護師として備えるべき法的思考を身につける。		
授業のキーワード	傷病者・障害者（高齢者、予備グループを含む）と医療・福祉等関係者との関係（法制度を含む）。予防から治療までの各過程における上記関係のあり様。なお、各章ごとにミニマム・エッセンスがあるので、それを参照すること。		
授業の到達目標	看護師として必要な社会保障・社会福祉・医療などに関する知識と考え方を習得することができる。		
授業計画	回	内 容	
	1	第1章 生活基盤	
	2	第2章 社会保障制度	
	3	第3章 社会福祉政策	
	4	第4章 公衆衛生と衛生統計	
	5	第5章 感染症と予防	
	6	第6章 生活環境の保全	
	7	第7章 保健活動	
	8	第8章 医療機関と従事者の職務	
教科書	川口ちづる監修 これだけ！公衆衛生・関係法規 技術評論社		
参考文献 その他資料	各種統計資料と医療六法（最新版・年刊については令和2年版がある）。 なお、教科書にあつて、この六法に掲載されていない法令や統計資料の新しいもの等については別途資料を用意し、配布したい。文献やネットの利用に関しては、講義の中で言及したい。		
成績評価方法	筆記試験（国試と同様の形式とする）。なお受講態度を加味することがある。		
備考	法令や資料に慣れ親しむように努力してほしい。		

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ		
単位数	3単位	時間数	120時間
履修年次	3年次 通年	必修・選択	必修
担当教員	石母田 由美子、藤原 美加、鈴木 慈子、浅野 志保、安倍 藤子（全員実務経験あり）		
臨地実習概要	慢性期の疾患を有する成人期にある人に健康的なライフスタイルの再構築やセルフケア行動の獲得に向けた教育指導を学習し実施する。終末期にある人とその家族の苦痛の緩和に向けた援助を学習し実施する。		
臨地実習目的	①慢性疾患の対象とその家族が抱える問題を把握し、セルフケア能力の向上に向け必要な看護を学ぶ。 ②終末期にある対象とその家族が抱える問題を把握し、苦痛の緩和を図るための看護を学ぶ。		
臨地実習のキーワード	生活習慣のアセスメント、セルフマネジメント、QOLの向上、患者教育、退院支援		
臨地実習の到達目標	<p>I 生涯コントロールを必要とする慢性疾患患者の生活習慣および健康観をアセスメントできる。</p> <p>II 生活習慣の再構築が必要な患者に対して学習支援を行える。</p> <p>III 実施した学習支援がセルフケア能力を向上できたか評価できる。</p> <p>IV 生活習慣の再構築とそれを維持していくための看護者の役割を説明できる。</p> <p>V 患者のQOLの維持と向上を図る実施可能な援助を行える。</p> <p>VI 終末期における看護者の役割を説明できる。</p> <p>VII 慢性疾患患者の看護援助を通して学んだ“看護とは”を文章化できる。</p> <p>VIII 学生としての役割・責務を果たすことができる。</p>		
実習期間	2022年5月9日（月）～2022年10月28日（金）のうちの3週間		
実習施設	大崎市民病院、総合南東北病院、長町病院、公立藤田総合病院 東北ろうさい病院、みやぎ県南中核病院、石巻市立病院		
臨地実習方法	<p>学生1名で慢性疾患（慢性の機能障害）のある患者1～2名を受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>看護過程は、「診断・治療導入期」「安定・維持期」「急性増悪期・再燃期」「進行期」「終末期」の時期に応じて、セルフケア、緩和ケアに焦点をあてる。慢性疾患とともに生きる患者の軌跡（過去～現在～未来）を見据え、患者・家族との関わりから、より良い方向への変化を支える看護を見出し、実践し、評価する。</p> <p>受け持ち患者の選択基準としては、以下の条件を満たすことが望ましい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として成人期の患者</li> <li>・慢性疾患により、日常生活に何らかの困難を持つ患者</li> <li>・何らかのコミュニケーションが可能な患者</li> </ul> <p>【学生配置と指導体制】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1グループ4～6名で編成する。</li> <li>2. 実習施設および実習病棟はオリエンテーション時に説明する。</li> </ol>		
臨地実習計画	日目	内 容	
	1	実習オリエンテーション	
	2	臨地実習	
	3	臨地実習	

臨地実習 計画	4	臨地実習	
	5	臨地実習	
	6	臨地実習：必要な看護技術確認	
	7	臨地実習 中間まとめ	
	8	臨地実習	
	9	臨地実習	
	10	臨地実習	
	11	臨地実習・看護技術の確認	
	12	臨地実習	
	13	臨地実習	
	14	看護過程・看護技術の振り返り	
	15	実習のまとめ、事例検討会	
	教科書	既習の教科書やテキストおよび授業で配布した資料。その他、オリエンテーション等で紹介する。	
	参考文献 その他資料	参考書は、授業の内容及び学生の要望に応じて、適宜紹介する。	
	成績評価方法	<p>成績評価を受ける資格は原則として全日程の出席である。やむを得ず欠席した場合は、担当教員および科目責任教員の指示を受ける。</p> <p>1. 評価の対象：          ①事前学習 ②看護実践の内容 ③実習記録 ④ケースレポート          ⑤評価表（ルーブリック）</p> <p>2. 評価の方法：事前学習、実習における看護実践（態度・意欲を含む）、実習記録、カンファレンスやケース発表会への参加、ケースレポートについて、実習目的・目標の到達度を、ルーブリックを用いて評価し（100%）、60%以上を合格とする。</p>	
備考	<p>本実習に臨むためには、「成人看護概論」、「成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」、「成人看護学実習Ⅰ」を履修し、所定の単位を取得していること。</p> <p>実習オリエンテーションで、本実習の目的・方法・成績評価法、実習施設、シラバスの変更点など重要事項を説明する。実習オリエンテーションおよび実習前演習は、臨地実習の一環と位置付けられており、出席を前提とする。欠席した場合は、実習に出ることができないことがある。</p> <p>準備学習として、「成人看護学概論」および「成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」で学習した知識を活用し、実習病棟で経験する主な疾患と病態生理、受け持ち患者情報の理解に努める。120分程度の事前学習時間が必要と考える。</p> <p>日々の実習終了後には、60分程度を要して実習記録を整理する。その上で、疑問点を明確にし翌日の実習で疑問を解消する姿勢で臨むこと。</p>		



授業科目名	高齢者看護学実習Ⅱ		
単位数	2単位	時間数	80時間
履修年次	3年次 通年	必修・選択	必修
担当教員	岡田 康平、佐藤 文枝（全員実務経験あり）		
臨地実習概要	病院で治療を受けながら生活を送る高齢期にある人を対象として実習を行う。また、超高齢社会の看護問題と対策について方向性を考えることができるよう学習を進める。		
臨地実習目的	病院で治療を受ける高齢者に対して、身体的、心理的、社会的特徴を踏まえ、その力が最大限に発揮できることを目指した看護援助を学ぶ。		
臨地実習のキーワード	高齢者看護、入院治療、退院支援、退院調整		
臨地実習の到達目標	<p>I 病院で治療を受けている高齢者を対象とし、看護過程を活用したアセスメントを行い、必要な看護を系統的に実践し評価する。</p> <p>II 高齢者の状態に応じた自立を促すための看護について理解する。</p> <p>III 退院後の生活についての意向を尊重した退院支援・調整と、そのための社会的課題や対策についての方向性を考える。</p>		
実習期間	2022年5月～2022年10月のうちの2週間		
実習施設	西仙台病院、松島病院、斎藤病院、富沢病院、長町病院のうち指定された施設		
臨地実習方法	<p>1. 入院中の高齢者を1名受け持ち、看護過程を展開することで必要な看護を導き出し実施・評価を行う。</p> <p>2. カンファレンスを通して学生相互の学びを統合し、退院支援やその後の療養を支援する社会資源の活用方法や専門職者の連携等について理解する。</p>		
臨地実習計画	日目	内 容	
	1	学内実習：実習事前学習の確認 ・ 自己の課題に基づいた学習	
	2	臨地実習	
	3	臨地実習	
	4	臨地実習	
	5	臨地実習：中間カンファレンス	
	6	学内実習：全体中間カンファレンス・看護計画の立案	
	7	臨地実習	
	8	臨地実習	
	9	臨地実習：最終カンファレンス	
10	学内実習：全体最終カンファレンス・記録提出		
教科書	老年看護の教科書、授業での配布資料		
参考文献 その他資料	オリエンテーションで紹介する		

成績評価方法	<p>以下を総合的に評価し、到達度60%以上を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①事前学習</li> <li>②実習記録</li> <li>③事後レポート</li> <li>④実習態度</li> </ul>
備 考	<p>履修条件：「高齢者看護学概論」、「高齢者看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していること。</p>

授業科目名	小児看護学実習Ⅱ		
単位数	1単位	時間数	40時間
履修年次	3年次 前期	必修・選択	必修
担当教員	井上 由紀子、高橋 育子（全員実務経験あり）		
臨地実習概要	地域社会における子供と家族の生活から、健康障害の有無による発達段階各期の特性および個別性を理解し、子供や家族を総合的に理解し必要な支援や役割について学習する。		
臨地実習目的	小児各期の子供との関わりを通して、発達段階について理解を深め、成長・発達や心理を考慮した看護支援に必要な知識、態度を学ぶ。		
臨地実習のキーワード	発達段階、健康レベル、看護支援、遊び、家族		
臨地実習の到達目標	<p>I 年齢に応じた小児の成長・発達状況、特性、基本的生活とその習得課程について理解を深める。</p> <p>II 小児の健康状態の観察方法を学び、実践できる。</p> <p>III 小児の遊びと環境への配慮、経験学習を深める関わりについて学び実践できる。</p> <p>IV 保育士や看護師と保護者とのコミュニケーションの必要性とその手段・方法について学ぶ。</p> <p>VI 小児看護学実習Ⅰ（病院実習）で対象となった子供や家族の生活が、地域社会ではどのように保障されているのか、どのような環境で生活しているのかを理解し、健康障害をもった子供や家族が地域社会で生活していくためのニーズをとらえることができる。</p>		
実習期間	2022年5月9日（月）～2022年7月29日（金）のうち1週間		
実習施設	仙台市内の保育所、こども園のうち指定された保育施設		
臨地実習方法	<p>乳幼児の世話や遊びを通じて乳幼児の反応や保育士等のかかわりを観察し、健康障害の有無によらず、子供と家族が地域社会で生活していくための支援を学ぶ。また、地域における施設の機能や役割および看護師に求められる役割を理解する。</p> <p><b>【学生配置と指導体制】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>発達段階が異なる2つ以上のクラスで実習を行う。</li> <li>実習施設の保育士、看護師等が指導を行う。</li> </ol>		
臨地実習計画	日目	内 容	
	1	<p>学内実習 実習オリエンテーション</p> <p>健康な子供の成長発達について</p> <p>健康障害が子供の成長・発達に与える影響について</p>	
	2 ・ 3 ・ 4	<p>施設実習 ・ 施設概要のオリエンテーション（保育所の地域での役割、他の子育て支援機関との連携について）</p> <p>・ 受け持ちクラス日課に参加（子供の成長・発達段階による特性、基本的生活とその習得課程、遊び、食事介助）、受け持ちクラスの情報収集</p> <p>・ 看護師からの講話（保育所で求められる看護師の役割や機能、健康障害を持つ子供に関して集団生活する上での留意点など）</p> <p>※3日間の異なる曜日に、異なる年齢のクラスを受け持つ。成長・発達段階の異なる子供とかわることで、それぞれに異なる特性（基本的生活習慣とその習得）や、異なる事故対策・感染防止対策を学習する。</p>	
	5	学内実習 実習のまとめ	

教科書	系統看護学講座 小児看護学〔1〕 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院
参考文献 その他資料	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版
成績評価方法	実習内容、実習記録、レポート、到達度評価票等により総合的に行う。 原則として全て出席している者が評価対象となる。やむを得ず欠席があった場合でも5分の4以上の出席がない場合は評価対象外となるため健康管理には細心の注意を払うこと。
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小児看護学概論」、「小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」、「小児看護学実習Ⅰ」を履修し、所定の単位を取得していること。</li> <li>・教員や指導者からの助言を待っているのではなく自ら学ぼうとする姿勢で臨むこと。</li> <li>・人間発達と家族、生活技術援助論等の既習科目の復習と実習に関連した情報の収集を十分に行い実習の準備を十分に行うこと。</li> <li>・小児看護学実習Ⅱの看護技術水準が達成できるように、看護技術を事前に修得しておくこと。</li> <li>・実習共通要項、小児看護学実習Ⅱの要項を熟読し実習に備えること。</li> <li>・課題や記録物は指定通りに作成、提出できない場合は減点の対象とする。</li> <li>・実習中の言葉遣い、態度、身だしなみは子供の見本となるよう留意すること。不適切な場合は実習中止の場合もある。</li> <li>・事前の学内オリエンテーション、演習も実習の一部となっているため参加を原則とする。</li> </ul> <p>小児看護学実習Ⅰで対象とした健康障害をもつ子供と家族が、地域社会で生活していくための支援、特に健康な子供達とともに生活し、成長・発達していくためには、どのような支援、配慮が必要になるかを小児看護学実習Ⅰで各人が考察した視点を常に持ちながら実習に臨むこと。併せて、在宅看護論Ⅱで学習した共生型福祉施設での学びを復習し、健康障害の有無が子供にどのような影響を与えているのかを理解する。</p>

授業科目名	精神看護学実習		
単位数	2単位	時間数	40時間
履修年次	3年次 通年	必修・選択	必修
担当教員	佐藤 浩一郎、金野 明子、寺田 みゆり (全員実務経験あり)		
臨地実習の概要・目的	精神の障害をもつ人とのかかわりを通して、人がこころを病むことを理解し、精神看護の役割や機能と援助の実際を学ぶ。そして看護場面の再構成を行い、対象者の理解を深めるとともに自己の洞察も深め、対人関係技術を学ぶ。		
臨地実習のキーワード	こころを病むことへの理解、精神看護と治療的なかかわり、看護師の態度と自己洞察、治療環境と安全管理、地域における精神看護		
臨地実習の到達目標	<p>I その人を生物学的、心理学的、社会・文化的側面から、看護ニードを統合的に説明することができ、こころを病むことへの理解を深めることができる。</p> <p>II 精神障害をもつ人の健康回復に向けて、日常生活の自立（自律）のための個別的な看護を実践することができる。</p> <p>III 精神障害をもつ人のかかわりのなかで、対人関係の大切さを知り、ひとりの人間として敬意と態度を育んだコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>IV 治療環境を理解し、その中で安心・安全な看護援助を理解することができる。</p>		
実習期間	2022年5月～2022年10月		
実習施設	東北医科薬科大学病院、西仙台病院、緑ヶ丘病院、石越病院、富沢病院、こだまホスピタル		
臨地実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設・病棟オリエンテーション。</li> <li>2. 情報収集とアセスメント、第1段階。精神科病院に入院している患者1名を受け持つ。対象者に挨拶する。</li> <li>3. 情報収集とアセスメント、第2段階。対象者とかかわりながら関係を深めてゆく。</li> <li>4. 情報収集とアセスメント、第3段階。全体像を統合し看護計画を立案する。</li> <li>5. 各施設での作業療法・SST・地域精神保健福祉活動等について学ぶ。</li> <li>6. 看護援助の実施と評価、第1段階。対象者と一緒に課題に取り組む。</li> <li>7. 看護援助の実施と評価、第2段階。看護場面のプロセスレコード（患者－学生との関係のふり返し）。</li> <li>8. 看護援助の実施と評価、第3段階。対象者とかかわりの終了にむけて取り組む。</li> <li>9. 学内実習では病棟での実習をまとめる。</li> <li>10. 各施設により半日・1日デイケアでの実習。利用者と共にプログラムに参加する。</li> </ol>		
臨地実習計画	回	内 容	
	1	学内実習 オリエンテーション	
	2	臨地実習	
	3	臨地実習	
	4	臨地実習	
	5	臨地実習 中間面接	
	6	臨地実習	
	7	臨地実習	
	8	臨地実習	

臨地実習 計画	9	臨地実習 最終面接
	10	学内実習 まとめ
教科書	看護学テキスト NICE 精神看護学Ⅰ 改訂第3版 南江堂 看護学テキスト NICE 精神看護学Ⅱ 改訂第3版 南江堂	
参考文献 その他資料	講義で配布した資料や事前学習等のレポートを参照してください。	
成績評価方法	<p>1. 評価対象 実習中の行動、看護実践、事前・事後レポート、実習中の記録物など、本実習のすべてのプロセスを対象とする。</p> <p>2. 評価方法 実習評価表に基づき評価する。到達度60%以上を合格とする。</p>	
備考	本実習の履修要件は、「精神看護学概論」、「精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していることである。	

授業科目名	看護管理学		
単位数	1単位	時間数	15時間
履修年次	3年次 前期	必修・選択	必修
担当教員	熊谷 英樹 (実務経験あり)		
授業の概要・目的	看護におけるマネジメントとは何かを理解し、組織における協働および看護の質保証と看護管理について考える。看護を取り巻く法律と看護管理を実行するうえでの制度を学ぶことで、医療現場における管理者の役割を深く考える。また、経営活動と看護管理との関連から、看護職の経営参画についての理解を深め、さらに医療安全への取り組みと医療の質評価およびリスクマネジメントについて学習し、安全で質の良い医療・看護を提供するための基本的考え方を身につける。		
授業のキーワード	看護管理, 看護制度, 看護組織, 看護提供システム, 安全管理, 看護サービスの質的・経済的評価, 人的資源管理, 物的資源管理, リーダーシップ		
授業の到達目標	I 看護管理の概念や看護を組織的に提供するしくみを理解し説明できる。 II 看護管理者に必要な知識やマネジメント能力を説明することができる。 III 看護管理の概念や看護を組織的に提供するしくみを理解し、より良い看護に必要なマネジメントについての見解を述べるができる。		
授業計画	回	内 容	
	1	看護管理学ガイダンス「看護管理とは」	
	2	看護の組織化と看護職の役割「組織の成り立ちとマネジメント」 「看護職の拡大する役割と資格認定制度」	
	3	多職種との協働・連携「医療施設における看護サービス提供体制」	
	4	組織化と看護管理者の職務「看護必要度と看護人員配置」	
	5	看護管理者の基本的責務「看護業務基準と労務管理」 「資源管理・コスト管理・情報管理」	
	6	保健医療福祉制度と政策「医療法・保健師助産師看護師法・診療報酬制度」	
	7	安全管理「医療事故とリスクマネジメント・組織とリスクマネジメント ・業務上の危険因子とその対応」	
	8	これからの看護管理者に求められるもの「看護管理者の役割」「マネジメントの知識を活用した看護」	
教科書	講義ごとにハンドアウトを配布する。		
参考文献 その他資料	看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル 2018年 南江堂 ナーシンググラフィカ 看護管理 看護の統合と実践① 2017年 メディカ出版 その他、講義で提示・紹介する。		
成績評価方法	授業・課題への取り組み (20%), 筆記試験 (80%)		
備考	組織の一員として役割期待に応える存在となるのが大切です。自分の存在を自覚し、組織や地域に貢献できる基礎知識を身につけ、リーダーシップをとることのできる看護職者になることを目指します。		

授業科目名	災害看護		
単位数	1単位	時間数	15時間
履修年次	3年次 通年	必修・選択	必修
担当教員	石母田 由美子（実務経験あり）		
授業の概要・目的	災害が人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学ぶ		
授業のキーワード	災害サイクル、トリアージ、こころのケア、地域防災、備え		
授業の到達目標	I 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する II 災害発生時の社会の対応や仕組み、個人の備えや地域防災を理解する III 災害が人々に及ぼす影響を理解する IV 災害時に看護の果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する		
授業計画	回	内 容	
	1	災害および災害看護に関する基礎的知識	
	2	災害発生時における社会の対応や仕組み、個人の備え	
	3	災害が人々の健康や生活に及ぼす影響	
	4	1) 避難所運営ゲーム (HUG) 演習①	
	5	災害時に看護が果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動	
	6	2) トリアージ 演習②	
	7	3) 被災地の病院における初動態勢の構築 演習③	
	8	まとめ	
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院		
参考文献 その他資料	授業時提示する		
成績評価方法	筆記試験80%、課題レポート20% やむを得ない理由による欠席の場合は、前もって連絡し、学生自らの申し出により別途設定する補講等を受講すること。		
備考	<p>【受講開始前】既習の関係法規、看護管理、急性期疾患の病態生理の復習をしておく。また、授業時間毎のテーマに関連するテキストの項目を確認し、受講前に疑問点を整理しておく。30分～60分程度の予習をする。</p> <p>【受講開始後】30分～60分程度の復習の時間を設け、講義内容の要約を記録し、授業で提示する参考文献のなかで関心のあるものを読み理解を深めた上で取り組むことを勧める。</p> <p>※課題学習は、提出を受け、担当教員が内容を確認後に返却する。理解促進のために、必要時はコメントの記入、対面による疑問点の解消の機会を持つ。</p>		



授業科目名	看護研究		
単位数	2単位	時間数	30時間
履修年次	3年次 通年	必修・選択	必修
担当教員	小野 八千代、佐藤 喜根子、平尾 由美子、井上 由紀子、佐藤 浩一郎、熊谷 英樹、菊地 真、石母田 由美子、岡田 康平、木村 涼子、金野 明子、星 純子、熊田 真紀子、藤原 美加、鈴木 慈子、浅野 志保、安倍 藤子、佐藤 文枝、高橋 育子、鹿野 卓子 (全員実務経験あり)		
授業の概要・目的	研究をすることの重要性や、種類、進め方、クリティーク、倫理について理解するとともに、看護について考察できる姿勢を養うことを目的とする。具体的には、事例研究に関する一般的知識を中心に学習を進め、事例研究の意義について理解し、文献の活用を行いながら、自らが実習で関わった事例をもとに各自が事例研究を行う。これにより、自分の行った看護について意味づけをし、看護観の育成を図ると共に、今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。また、研究成果の発表と評価を行い、研究論文としてまとめる能力を養う。		
授業のキーワード	クリティカルシンキング、クリティーク、論理的思考、事例研究、研究倫理		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>I 看護研究の意義と役割を理解する。</li> <li>II 研究の過程（プロセス）を理解する。</li> <li>III 看護の視点から、課題を明確にするための文献を検索し精読する。</li> <li>IV 論理的に思考し、表現する力を身につける。</li> <li>V 研究的態度を身につける</li> <li>VI 研究計画が立案できる。</li> <li>VII 研究計画に基づいてデータ収集できる。</li> <li>VIII 収集したデータを分析し考察できる。</li> <li>IX 研究のプロセスを通して、研究者として必要な基本的態度を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 倫理的配慮（研究倫理、研究者倫理）ができる。</li> <li>2) 研究の限界を客観的にとらえ、今後の課題を検討できる。</li> </ul> </li> </ul>		
授業計画	回	内 容	
	1	研究とは	
	2	文献検索の方法	
	3	量的研究とは・質的研究とは（事例研究含む）	
	4	文献購読No1：論文クリティークとは	
	5	文献購読No2：実際クリティークをやってみよう	
	6	研究計画書の書き方	
	7～15	各担当教員に分かれ実施	
教科書	適宜提示する		
参考文献 その他資料	適宜提示する		
成績評価方法	<p>成績評価方法：1. 提出物（60%）2. 学習態度（40%）</p> <p>成績評価基準：評価の基準は、提出された論文の内容と目標Ⅰ～Ⅸまで学習していく過程の態度を総合して、C以上を合格の基準とする。</p>		
備考	2022年4月～領域を決定しゼミ方式で開始 11月30日レポート締切		

授業科目名	在宅看護論実習Ⅱ		
単位数	1単位	時間数	40時間
履修年次	3年次 通年	必修・選択	必修
担当教員	平尾 由美子、鹿野 卓子、鈴木 博美、越川 暢恵（全員実務経験あり）		
臨地実習概要	<p>（居宅における在宅看護） 疾病や障害を持ちながら在宅で療養する人々とその家族の養生活上のニーズをとらえ、訪問看護ステーションにおける看護活動を通して、在宅看護のプロセスを学ぶ。在宅ケアシステムと保健医療福祉職チームの連携方法を理解し、看護職の役割がわかる。生活の場における看護師に求められる姿勢や態度、在宅看護の展開に必要な基礎的能力を修得する。</p>		
臨地実習目的	在宅で生活する療養者とその家族を統合的に理解し、在宅療養者（以下、対象者）と家族が望むその人らしい生活を送るための看護および支援のあり方を学ぶ。		
臨地実習のキーワード	訪問看護ステーション、家族ケア、継続看護、多職種との連携		
臨地実習の到達目標	<p>I 対象者と家族の療養生活上のニーズを理解し、援助の実践を通して、在宅看護のプロセスを理解できる。</p> <p>II 在宅ケアシステムと在宅ケアにかかわる保健医療福祉職チームの連携方法、および看護職の役割を理解できる。</p> <p>III 在宅ケアに関わる看護者に要求される姿勢や態度について学ぶことができる。</p>		
実習期間	2022年5月～2022年10月のうちの5日間		
実習施設	<p>仙台市地域包括支援センター（愛宕橋、五橋、河原町、国見、小松島、七郷、四郎丸、高砂、台原、榴岡、富沢、長町、福田町、八木山） 訪問看護ステーション（せんだんの丘、はづき、めぐみケア、ケアステーションつくし、ケアステーションながまち、小松島、セントケア太白山田、あおい）</p>		
臨地実習方法	<p>1. 地域包括支援センターにおいて、家庭訪問、介護予防教室、地域ケア会議への参加・見学をする。（1日間）</p> <p>2. 訪問看護ステーションにおいて、看護師と共にさまざまな対象者宅を訪問し、観察、状況把握、看護ケアの見学を行い、看護師の役割と多職種連携の実際を見学する。（2日間）</p> <p>3. 療養者およびその家族とのコミュニケーションを通して、在宅療養者と家族にとっての生活の場における療養の意義と、看護師の役割を考える。</p> <p>〈実習配置と指導体制〉</p> <p>1. 学生1～2名を1グループとして実習を行う。</p> <p>2. 教員は巡回指導にあたる。</p>		
臨地実習計画	日目	内 容	
	1	学内実習 オリエンテーション、事前学習	
	2	地域包括支援センター実習	
	3	訪問看護ステーション実習	
	4	訪問看護ステーション実習	
5	学内実習 実習のまとめ 発表会		
教科書	<p>ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① メディカ出版</p> <p>ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② メディカ出版</p>		

参 考 文 献 そ の 他 資 料	授業で配布した資料 その他適宜提示する。
成績評価方法	<p>成績評価を受ける資格は原則として全日程の出席である。やむを得ず欠席した場合は、担当教員及び科目責任教員の指示を受ける。</p> <p>1、評価の対象</p> <p>①事前学習 ②看護実践の内容 ③実習記録 ④実習まとめ ⑤評価表</p> <p>2、評価の方法</p> <p>事前学習、実習における看護実践（態度とマナー、意欲を含む）、実習記録、実習まとめの参加態度について、実習目的と目標の到達度を、総合的に評価し、60%以上で単位を与える。</p>
備 考	<p>本実習に臨むためには、「在宅看護概論」、「在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ」 「在宅看護実習Ⅰ」を履修し、所定の単位を修得していること。</p>

授業科目名	統合実習		
単位数	2単位	時間数	80時間
履修年次	3年次 後期 集中	必修・選択	必修
担当教員	熊谷 英樹、佐藤 喜根子、小野 八千代、平尾 由美子、井上 由紀子、佐藤 浩一郎、石母田 由美子、菊地 真、岡田 康平、木村 涼子、金野 明子、星 純子、熊田 真紀子、高橋 育子、鈴木 慈子、鹿野 卓子、藤原 美加、佐藤 文枝、浅野 志保、安倍 藤子、青野 都、鈴木 博美、寺田 みゆり、越川 暢恵（全員実務経験あり）		
臨地実習概要	既習の学習を統合して、臨床実務に即した看護管理や医療チームの連携、医療安全などを踏まえた看護実践能力を養い、看護師としての自覚と責任を培う。看護管理実習としては、リーダー業務や看護師長業務に同行する。また複数患者を受け持ち、業務の優先度を考えながら計画的に看護援助を行う。		
臨地実習的目	既習の知識・技術を整理統合させ、科学的思考と実践能力を養う。また、看護管理や保健医療福祉チームとの連携、健康寿命の延伸を支える看護実践を通して、チーム医療における看護師の役割や専門性についての理解を深める。		
臨地実習のキーワード	看護管理、看護提供システム、医療安全、リーダーシップ、多職種連携、看護観		
臨地実習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>I 学生個々の関心分野に対する看護実践力を高める</li> <li>II 看護職の組織体制やマネジメント、医療安全など管理の基本を体験する</li> <li>III 医療保健福祉チームにおける多職種との連携や協働の実際を体験する</li> <li>IV 複数の患者担当や夜間帯における看護活動の特殊性と情報の伝達の実際を体験する</li> <li>V 社会に求められる看護師像を説明できる</li> </ul>		
実習期間	2022年11月8日（月）～2022年11月25日（金）		
実習施設	石巻市立病院、栗原中央病院、公立藤田総合病院、総合南東北病院、東北医科薬科大学病院、みやぎ県南中核病院		
臨地実習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現場看護師の実践を学ぶ 看護部長、病棟における看護師長業務の見学。複数の患者の一日のケアマネジメントについて理解する。日勤帯から夜勤における引継ぎに参加し、情報伝達の内容・方法を理解する。患者を取り巻く多職種の連携の方法・内容について見学する。 【実習配置と指導体制】 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 1グループ4～5名で編成する。</li> <li>2. 実習施設及び実習病棟はオリエンテーション時に説明する。</li> </ul> </li> <li>2. 学内・学外での看護実践活動への参加により、看護の専門性について学ぶ 自主的に看護実務活動（保健医療福祉系学会、セミナー、ボランティア等）へ参加する。 【看護実践活動への参加方法】 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 看護セミナー、研修、学会やボランティア等への参加</li> <li>2. ポイント制で評価</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">※詳細は実習要項に示し、オリエンテーションで説明する</p> </li> </ol>		
臨地実習計画	日	内 容	
	1	実習オリエンテーション、実習準備	

臨地実習 計	2	臨地実習
	3	臨地実習
	4	臨地実習
	5	臨地実習
	6	学内実習 グループワーク
	7	学内実習
	8	学内実習
	9	学内実習 実習のまとめ発表会
	10	学内実習 記録のまとめ・提出
	教科書	既習の教科書やテキストおよび授業で配布した資料。その他、オリエンテーション等で紹介する。
参考文献 その他資料	参考書は、適宜紹介する。	
成績評価方法	<p>成績評価を受ける資格は原則として全日程の出席である。やむを得ず欠席した場合は、担当教員及び科目責任教員の指示を受ける。</p> <p>1. 評価の対象          ①事前学習 ②看護実践の内容 ③実習記録 ④実習のまとめ発表会 ⑤レポート ⑥評価表</p> <p>2. 評価の方法          事前学習、実習における看護実践（態度とマナー、意欲を含む）、実習記録、実習まとめの参加態度について、実習目的と目標の到達度を評価し、60%以上で単位を与える。</p>	
備考	履修条件：「看護管理学」の単位を取得していること。かつ領域実習を履修中で、単位の修得見込みがあること。実習施設ごとに実習オリエンテーションを実施する。	

学籍番号

氏名

シラバス 2022 3年生

2022年4月1日 発行

編集・発行

所在地

学校法人 赤門宏志学院

仙台赤門短期大学 看護学科

〒980-0845

仙台市青葉区荒巻字青葉 6 番 41

TEL 022-395-7750 (代表)



学校法人 赤門宏志学院  
仙台赤門短期大学 看護学科